

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470104060		
法人名	社会福祉法人 温寿会		
事業所名	グループホーム 庄の原苑(やすらぎ)		
所在地	大分県大分市大字荻の隈字庄の原1797番地		
自己評価作成日	平成23年2月20日	評価結果市町村受理日	平成23年5月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・高台の住宅地にあり、自然環境に恵まれている。市街地に近く、ご家族が立ち寄りやすいことから、ご家族の皆さんがいつでも気軽に来ていただける施設を目指している。
 ・本人の思い、希望をかなえるための、個別支援に取り組んでいる。
 ・法人運営のクリニックとの連携をはかりながら、健康管理を充実させている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・緑豊かな高台にあり、由布岳や鶴見岳、市街地が一望でき、眺めの良い環境である。また、隣接しているクリニックや有料老人ホーム・福祉施設などがあり、適切な医療などが受けられるようになっている。
 ・市街地に近い場所にあり、家族が気軽に立ち寄り、面会の回数も多い。家族会も年に2回開催され、意見や要望は運営に反映している。
 ・介護計画書は本人の思いや希望をかなえるために、きめ細かな情報収集により「その人らしさ」を大切に支援を提供している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	苑の存在意義を理念として掲げ、毎日復唱することで、職員一人一人に意思づけをしている。その中で、地域の一員としての役割を認識し、実践につなげている。	理念は、目につきやすい玄関やホールに掲示され、毎日復唱することで、職員一人ひとりが意識し、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントに積極的に参加している。苑の夏祭りには、地域の方にも呼びかけ、交流をはかっている。また、地域の小学校とも交流を深めている。	地域の方に、野菜作りを教えてもらったり、お祭りなどの行事に参加したりして、交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームで実践と経験からなる認知症に対する知識は、地域包括支援センター主催のネットワーク会議に参加し、地域へ情報を発信している。また、広報誌をとうしてお知らせしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、積極的な情報交換を行っている。その会議で取り上げられた意見や要望は、全体会議にはかり改善している。	2ヶ月に1度開催、市の地域包括支援センター・自治会・民生委員・家族の代表の方々と情報交換をしている。意見や要望などは、全体会議に取り上げ、サービスの向上につなげている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営や現場の実情、困っていることを、長寿福祉課へ出向き、アドバイスをいただいたり、電話で聞いたりしている。	市の担当者に電話をしたり直接出向いたりして、事業所の運営や現状などについて、困ったことなどを相談しアドバイスを受けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や権利擁護に関する勉強会を実施している。外出したい気配のある方は、職員間の連絡を密にし、外に出て行かれたときは、一緒についていき、自由に安心して生活できるようにしている。	身体拘束や権利擁護については、外部の研修などに参加している。その内容を他職員も共有できるように勉強会を開き、全ての職員が正しく理解している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の全体会議のなかで、勉強会をして、全員に周知している。		

事業者名: グループホーム庄の原苑(やすらぎ)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で勉強してきた職員が、会議の時に報告を兼ね、研修会をしている。また、県や市から通達があったときは、会議で職員に周知している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書を用いて家族に十分な説明を行い、納得して頂き契約をしている。また、内容の変更や新たな契約が必要になったときは、そのつど説明し納得を頂いたうえで、契約の締結をしている。	
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、その集まりの中で、みなさんからの意見や要望を出して頂いたり、面会時等職員に要望したことなど、会議にはかり、改善に努めている。また、要望については、回答を文書にし、ご家族に送付している。	年2、3回家族会を開き、その際や面会時に意見や要望を聞いて、会議で検討し改善に努めている。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議の時に、職員からの意見や提案を出してもらい、みんなで議論し、実行している。何でも言い合える職場の雰囲気づくりを心がけている。	職員の意見や提案については、月1回の会議で、全職員で検討し、反映させている。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績に報いるよう必要な評価を行い、努力した職員のやりがいを助長するよう、給与決定・研修派遣などで、配慮している。また、定期的に面談を行い、処遇について意見交換をしている。	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望を聞いたり、必要な資格を取る為の研修に参加してもらい、それを苑内の研修でフィードバックしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉施設の各種会議に参加し、研修・交流会・懇談会などをとらして、意見交換会を行うことにより、意識向上・技術向上をはかっている。	

事業者名: グループホーム庄の原苑(やすらぎ)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をゆっくり傾聴し、信頼関係を築き、困っていること、不安なことを気軽に話して頂けるよう、心がけている。	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯について、ゆっくりとお話を聞き、状況を把握しながら、苑として出来ることをお話ししている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人やご家族が今どういう状況で困っているのか、不安に思っているのか確認し、その方にあった支援を提案している。また、緊急時は同事業所内で対応できるようにしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、お互いに協働しながら感謝の気持ちをことばであらわすことで、和やかに生活できるようにしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に毎月体調や様子などをお知らせしたり、外出行事のときは、参加をお願いし、一緒に行っていたりしている。面会に来られた時に、手紙では伝えきれないことをお話ししている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの時に、生まれ育った所、前住んでいた懐かしい場所に行っている。また、お友達や親戚が来られた時は、ゆっくり話せるよう支援している。	家族や併設施設と協力し、帰省や墓参りなど、利用者の希望を出来るだけ取り入れ、馴染みの場所や人との関わりが途切れないよう努めている。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格、趣味、生活習慣等を職員が共有し、日々変わる利用者同士の関係については、情報を連携しすべての職員が共有できるようにしている。	

事業者名: グループホーム庄の原苑(やすらぎ)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>同じ法人内に入所した方は、週一～二回位訪問し、コミュニケーションをはかったり、必要に応じてご家族と連絡をとっている。</p>	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>3か月毎に家族や本人を含めてカンファレンス(場合によってはその都度)を行っている。本人の希望を第一に考え、ケアプランを作成している。</p>	<p>日頃の言動や表情を把握し、3ヶ月に1度家族や利用者とはカンファレンスを行っている。また、本人の意向を大切にしながら、利用者の希望を第一にしている。特に思いや意向の把握はセンター方式を取り入れ、きめ細かな情報を収集している。</p>
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ケアプランを作るにあたり、センター方式の用紙を作成している。その時に、家族と昔の生活歴等を伺っている。</p>	
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>センター方式の中にも1日の過ごし方や心身の状態等についての項目がある。有する力に関しては、出来ない事をプランに入れるのではなく、少しでも出来ることをプランには反映している。</p>	
26	(10)	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>3か月毎に家族を含めてのプラン見直しのカンファレンスと1か月毎に本人の状態やケアプランの実施状況を確認しながらモニタリングを行い、介護計画書作成に努めている。</p>	<p>3ヶ月に1度、家族や利用者とはカンファレンスを行い、利用者の状態などを確認しながら、1ヶ月ごとに介護計画を見直し、現状に即した計画を作成している。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の介護記録を作成して、日々の記録と支援経過表を作成して、ケアの実施状況を記録して、職員間で情報の共有を行い、介護計画に見直しに生かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ケアプラン作成時に既存のサービス以外をプランにも反映している。本人の希望を叶える為にも個別対応で本人の希望の実現に努めている。</p>	

事業者名: グループホーム庄の原苑(やすらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との結びつきを密にする為にも、地域の行事等にも少しずつではあるが参加できている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、家族の希望があれば法人内にある24時間365日対応できるクリニックを、主治医としている。入所前のかかりつけ医を望まれば今迄どうりの病院で医療を受けられるように支援している。	併設のクリニックで、24時間体制で対応ができる。またかかりつけ医や専門医への受診は、職員の付き添いで行われ、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録とは別に、看護記録に日々の医療面に関する記録を行い、看護師とともに、入所者の状態を把握している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への入退院に関しては、ケアマネが一貫して連絡、調整をはかっている。また、病院が主催する研修会にも参加している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化した場合(医療が必要になったとき)と終末期の家族の意向を伺い、事業所としてできることをゆたえている。職員間でも会議の時に、出来ることの確認をしている。	重度化や終末期のケアについては、入所時に本人や家族の意向を確認している。また必要に応じてその都度話し合いをして確認している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、急変時や事故の時など、迅速に対応できるようにしている。事業所の研修会でとりあげ、実践できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に一回防災訓練を行っている。運営推進会議で自治会に協力要請をしたり、苑の広報誌をご近所に配布する時に、協力を呼びかけている。	自治会や近隣の方々に協力を呼びかけ、2ヶ月に1度、法人全体で防災訓練を行っている。	

事業者名: グループホーム庄の原苑(やすらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の支援は、必ず本人に確認、自己決定しやすいようなことばかけをしている。また、排泄介助のときは、傍に行き耳元で声掛けしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないよう、職員間で情報を共有している。利用者が、自己決定しやすいような言葉かけや対応をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあわせて声掛けをしている。、意思疎通の難しいかたは、表情みながらボディタッチを行い意思確認を行っている。また、嗜好品等については、いくつか提示し、選んで頂いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望にそって、体調に考慮しながら散歩に行ったり、買い物に行ったり、ゲームをしたりしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服や、入浴時の着かえは、本人に選んで頂くか、職員が本人の希望聞きながら一緒にえらんでいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳、片づけなどを利用者と一緒にやっている。また、月に4回のおやつ作りや、月1回の昼食づくりで、自分で作ることの楽しみや、喜びを感じて頂いている。食事のときは、職員も一緒に同じテーブルで楽しくできるようにしている。	利用者の一人ひとりの機能を活かし、食事の準備・配膳・片付けなど役割をもって、職員と一緒にこなしている。食事は、職員も一緒に楽しく出来るよう支援されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎食毎にチェックし、減少がみられるときは、ドクターに相談している。調理形態も、その人にあつたものを、栄養士と相談しながら支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。出来るだけ自分でして頂き、出来ない部分は、職員がお手伝いしている。就寝前に義歯ははずしている。週一回の消毒を行っている。		

事業者名: グループホーム庄の原苑(やすらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄記録により、一人ひとりのパターンを把握して、トイレで排泄できるように声掛け、誘導を行っている。又、尿意のない方は、時間を決め誘導することによって、トイレで、排泄できるように支援している。	排泄記録で一人ひとりのパターンを把握し、トイレで排泄できるよう言葉がけ・誘導を行なっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操を行い、少しでもからだを動かすようにしている。個々の排泄・水分チェックで予防にこころがけている。また、飲み物などを工夫している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の希望により、入りたい日に、入浴していただいている。入浴中は話をしたり、歌をうたったり、コミュニケーションをはかりながら、支援をしている。	本人の希望にあわせ、さりげなく声かけなどをして、2日に1度は入浴をしてもらうようにしている。入浴時は、話をしたり歌を歌ったりコミュニケーションを図りながら、楽しんでもらえるように支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の、体調や気分にて、居室でテレビをみたり、ホールのソファでゆっくりされたりしている。就寝前は、リラックスできるように、飲み物を飲みながら、お話をしたり、テレビをみたりしながら、穏やかな時間づくりをしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋の個々のファイルをつくり、職員が把握できるようにしている。また、勉強会もおこなっている。服薬時は、職員が一人一人手渡し、飲み込みまで確認している。状態変化があるときは、クリニックと連携が図れるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力が発揮できるよう、出来る仕事をお願いし、感謝の気持ちを伝えている。また、個別に楽しめるように本人の希望で、散歩、買い物、生け花、ドライブなどできるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一回苑外行事で、ドライブ、食事、買い物など、家族に参加して頂き、楽しんで頂けるよう支援している。また、個別に行きたい所、したいことなど、お聞きし、希望がかなえられるように支援していく。	日々の近隣への散歩や、月1回のドライブや食事、買い物など、個人の希望する外出を支援している。苑外行事には、家族の方に参加してもらったり、協力関係も出来ている。	

事業者名: グループホーム庄の原苑(やすらぎ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は個人ではしていないが、移動販売やお店と一緒にいき、自分で買い物ができるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用したいときは、職員が番号を押して電話口に出て頂いている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空間は明るく、照明やカーテン等で調整を行っている。ホールには季節感を感じられるように、絵や飾りなどを行っている。月一回の生け花で季節の花に触れる機会もあり、散歩などで随時季節を感じられるよう支援している。	共用スペースは明るく、くつろいで過ごせる空間作りがされている。またホールには季節が感じられるような絵や飾り・花などが飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビ、本、新聞などがあり、ソファやテーブル席でゆっくり過ごして頂けるようにしている。また、食事のときの席も、楽しく食事ができるように、工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使っていた家具や、なじみの物を置いたり、写真を飾ったりして、自分の部屋とわかるように、また、安心して居心地良く過ごせる空間づくりをしている。模様替えは、ご家族とも相談し行っている。	居室には、自宅で使っていた家具や馴染みのものを置いたり、写真などを飾り、安心して居心地よく過ごせるような工夫がされている。男性の居室は、趣味の水墨画やDVDなどのセットもある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内移動、浴室、トイレは手すり設置で安全、安心にできるだけ自分でできるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470104060		
法人名	社会福祉法人 温寿会		
事業所名	グループホーム 庄の原苑(なごみ)		
所在地	大分県大分市大字荻の隈字庄の原1797番地		
自己評価作成日	平成23年2月20日	評価結果市町村受理日	平成23年5月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・高台の住宅地にあり、自然環境に恵まれている。市街地に近く、ご家族が立ち寄りやすいことから、ご家族の皆さんがいつでも気軽に来ていただける施設を目指している。
 ・本人の思い、希望をかなえるための、個別支援に取り組んでいる。
 ・法人運営のクリニックとの連携をはかりながら、健康管理を充実させている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット目に記載

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	苑の存在意義を理念として掲げ、毎日復唱することで、職員一人一人に意思づけをしている。その中で、地域の一員としての役割を認識し、実践につなげている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントに積極的に参加している。苑の夏祭りには、地域の方にも呼びかけ、交流をはかっている。また、地域の小学校とも交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームで実践と経験からなる認知症に対する知識は、地域包括支援センター主催のネットワーク会議に参加し、地域へ情報を発信している。また、広報誌をとうしてお知らせしている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、積極的な情報交換を行っている。その会議で取り上げられた意見や要望は、全体会議にはかり改善している。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営や現場の実情、困っていることを、長寿福祉課へ出向き、アドバイスをいただいたり、電話で聞いたりしている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や権利擁護に関する勉強会を実施している。外出したい気配のある方は、職員間の連絡を密にし、外に出て行かれたときは、一緒についていき、自由に安心して生活できるようにしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所の全体会議のなかで、勉強会をして、全員に周知している。	/	/

事業者名: グループホーム庄の原苑(なごみ)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で勉強してきた職員が、会議の時に報告を兼ね、研修会をしている。また、県や市から通達があったときは、会議で職員に周知している。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書を用いて家族に十分な説明を行い、納得して頂き契約をしている。また、内容の変更や新たな契約が必要になったときは、そのつど説明し納得を頂いたうえで、契約の締結をしている。			
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け、その集まりの中で、みなさんからの意見や要望を出して頂いたり、面会時等職員に要望したことなど、会議にはかり、改善に努めている。また、要望については、回答を文書にし、ご家族に送付している。			
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議の時に、職員からの意見や提案を出してもらい、みんなで議論し、実行している。何でも言い合える職場の雰囲気づくりを心がけている。			
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績に報いるよう必要な評価を行い、努力した職員のやりがいを助長するよう、給与決定・研修派遣などで、配慮している。また、定期的に面談を行い、処遇について意見交換をしている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望を聞いたり、必要な資格を取る為の研修に参加してもらい、それを苑内の研修でフィードバックしている。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉施設の各種会議に参加し、研修・交流会・懇談会などをとうして、意見交換会を行うことにより、意識向上・技術向上をはかっている。			

事業者名: グループホーム庄の原苑(なごみ)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話をゆっくり傾聴し、信頼関係を築き、困っていること、不安なことを気軽に話しして頂けるよう、心がけている。	
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯について、ゆっくりとお話を聞き、状況を把握しながら、苑として出来ることをお話ししている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人やご家族が今どういう状況で困っているのか、不安に思っているのか確認し、その方にあった支援を提案している。また、緊急時は同事業所内で対応できるようにしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、お互いに協働しながら感謝の気持ちをことばであらわすことで、和やかに生活できるようにしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に毎月体調や様子などをお知らせしたり、外出行事のときは、参加をお願いし、一緒に行っていたりしている。面会に来られた時に、手紙では伝えきれないことをお話ししている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブの時に、生まれ育った所、前住んでいた懐かしい場所に行っている。また、お友達や親戚が来られた時は、ゆっくり話せるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格、趣味、生活習慣等を職員が共有し、日々変わる利用者同士の関係については、情報を連携しすべての職員が共有できるようにしている。	

事業者名: グループホーム庄の原苑(なごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ法人内に入所した方は、週一～二回位訪問し、コミュニケーションをはかったり、必要に応じてご家族と連絡をとっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月毎に家族や本人を含めてカンファレンスを(場合によってはその都度)行っている。本人の希望を第一に考え、ケアプランを作成している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプランを作るにあたり、センター方式の用紙を作成している。その時に、家族と昔の生活歴等を伺っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の中にも1日の過ごし方や心身の状態等についての項目がある。有する力に関しては、出来ない事をプランに入れるのではなく、少しでも出来ることをプランには反映している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎に家族を含めてのプラン見直しのカンファレンスと1か月毎に本人の状態やケアプランの実施状況を確認しながらモニタリングを行い、介護計画書作成に努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成して、日々の記録と支援経過表を作成して、ケアの実施状況を記録して、職員間で情報の共有を行い、介護計画に見直しに生かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプラン作成時に既存のサービス以外をプランにも反映している。本人の希望を叶える為にも個別対応で本人の希望の実現に努めている。		

事業者名: グループホーム庄の原苑(なごみ)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との結びつきを密にする為にも、地域の行事等にも少しずつではあるが参加できている。			
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、家族の希望があれば法人内にある24時間365日対応できるクリニックを、主治医としている。入所前のかかりつけ医を望まれば今迄どりの病院で医療を受けられるように支援している。			
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録とは別に、看護記録に日々の医療面に関する記録を行い、看護師とともに、入所者の状態を把握している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への入退院に関しては、ケアマネが一貫して連絡、調整をはかっている。また、病院が主催する研修会にも参加している。			
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重度化した場合(医療が必要になったとき)と終末期の家族の意向を伺い、事業所としてできることをゆたえている。職員間でも会議の時に、出来ることの確認をしている。			
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、急変時や事故の時など、迅速に対応できるようにしている。事業所の研修会でとりあげ、実践できるようにしている。			
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に一回防災訓練を行っている。運営推進会議で自治会に協力要請をしたり、苑の広報誌をご近所に配布する時に、協力を呼びかけている。			

事業者名: グループホーム庄の原苑(なごみ)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の支援は、必ず本人に確認、自己決定しやすいようなことばかけをしている。また、排泄介助のときは、傍に行き耳元で声掛けしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にあわせて声掛けをしている。、意思疎通の難しいかたは、表情みながらボディタッチを行い意思確認を行っている。また、嗜好品等については、いくつか提示し、選んで頂いている。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望にそって、体調に考慮しながら散歩に行ったり、買い物に行ったり、ゲームをしたりしている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服や、入浴時の着かえは、本人に選んで頂くか、職員が本人の希望聞きながら一緒にえらんでいる。	
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳、片づけなどを利用者と一緒にしている。また、月に4回のおやつ作りや、月1回の昼食づくりで、自分で作ることの楽しみや、喜びを感じて頂いている。食事のときは、職員も一緒に同じテーブルで楽しくできるようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎食毎にチェックし、減少がみられるときは、ドクターに相談している。調理形態も、その人にあつたものを、栄養士と相談しながら支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。出来るだけ自分でして頂き、出来ない部分は、職員がお手伝いしている。就寝前に義歯ははずしている。週一回の消毒を行っている。	

事業者名: グループホーム庄の原苑(なごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の排泄記録により、一人ひとりのパターンを把握して、トイレで排泄できるように声掛け、誘導を行っている。又、尿意のない方は、時間を決め誘導することによって、トイレで、排泄できるように支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操を行い、少しでもからだを動かすようにしている。個々の排泄・水分チェックで予防にこころがけている。また、飲み物などを工夫している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の希望により、入りたい日に、入浴していただいている。入浴中は話をしたり、歌をうたったり、コミュニケーションをはかりながら、支援をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の、体調や気分にて、居室でテレビをみたり、ホールのソファでゆっくりされたりしている。就寝前は、リラックスできるように、飲み物を飲みながら、お話をしたり、テレビをみたりしながら、穏やかな時間づくりをしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋の個々のファイルをつくり、職員が把握できるようにしている。また、勉強会もおこなっている。服薬時は、職員が一人一人手渡し、飲み込みまで確認している。状態変化があるときは、クリニックと連携が図れるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの力が発揮できるよう、出来る仕事をお願いし、感謝の気持ちを伝えている。また、個別に楽しめるように本人の希望で、散歩、買い物、生け花、ドライブなどできるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一回苑外行事で、ドライブ、食事、買い物など、家族に参加して頂き、楽しんで頂けるよう支援している。また、個別に行きたい所、したいことなど、お聞きし、希望がかなえられるように支援していく。		

事業者名: グループホーム庄の原苑(なごみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理は個人ではしていないが、移動販売やお店と一緒にいき、自分で買い物ができるようにしている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話を使用したいときは、職員が番号を押して電話口に出て頂いている。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>空間は明るく、照明やカーテン等で調整を行っている。ホールには季節感を感じられるように、絵や飾りなどを行っている。月一回の生け花で季節の花に触れる機会もあり、散歩などで随時季節を感じられるよう支援している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにはテレビ、本、新聞などがあり、ソファやテーブル席でゆっくり過ごして頂けるようにしている。また、食事のときの席も、楽しく食事できるように、工夫している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自宅で使っていた家具や、なじみの物を置いたり、写真を飾ったりして、自分の部屋とわかるように、また、安心して居心地良く過ごせる空間づくりをしている。模様替えは、ご家族とも相談し行っている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホール内移動、浴室、トイレは手すり設置で安全、安心にできるだけ自分でできるようにしている。</p>		